



流通BMS[®]探訪

2010. 3. 9

No.4



目次

コープきんきの導入事例	1
トピック 流通 EDI 入門講座、流通 BMS 講座 開講	6

今回の流通 BMS 探訪では、生活協同組合を取り上げました。コープきんき事業連合は 7 つの生協が会員となって共同で出資・運営し、商品の仕入れや開発を進め、府県をまたがって事業活動を行う事業連合です。会員生協へも流通 BMS の効果が波及している事例です。

コープきんきにおける流通 BMS 導入事例 ～組合員の暮らしのお手伝いや生協事業経営への貢献を目指して～

コープきんき事業連合（本社・大阪市）は、大阪府をはじめ滋賀県、京都府、奈良県、和歌山県にある 7 つの会員生協を通じて、組合員約 170 万人へ共同購入・個配事業及び店舗事業により商品を供給しています。（2009 年度取扱高：2671 億円）

2003 年 7 月に設立、10 月に日本生協連に加入。設立の趣旨としては、コープ商品の開発、商品の品質保証や基準策定、物流やシステムでの連携による効率化等を目指しています。事業形態としては「無店舗事業（共同購入・個配）と店舗事業」があります。

同社の流通 BMS 導入の経緯、現状と狙いなどについて、事業支援本部システム部の竹内忠之氏にお伺いしました。

「個別システムの問題解決のために流通 BMS を導入しました」

—まず、流通 BMS 導入の狙いとその背景についてお聞かせください。

【竹内】

コープきんきでは、以前から仕様書管理～商品マスタ作成や決済の一本化に取り組んでいましたが、受発注・物流システムについては、各会員生協のシステムを活用してきました。

問題点としては、

- ① 会員生協ごとに発注・運用ルールが異なる（同じ商品でも発注日や納品日が異なる等）
 - ② 会員生協ごとにシステムが異なる（伝票発行ルール、発注単位が異なる等）
 - ③ 会員生協間で重複作業が発生している
- 等があり、取引先も困っておられる状況でした。



コープきんき事業連合
事業支援本部 竹内 忠之氏

これらの問題点を解決するために流通 BMS を導入することになったのです。会員生協の立場からすると、現状、発注ができていて商品も届けられており、大きな問題はないという認識でしたので、流通 BMS 導入の基本スタンスとしては、

- ① コストは会員生協側の改造を含め最小とすること
- ② 将来の拡張性を確保すること
(無店舗事業分から始め、店舗事業分を広げる)
- ③ 標準ルールを採用すること
- ④ 運用負荷を最小にすること

等を確認しました。

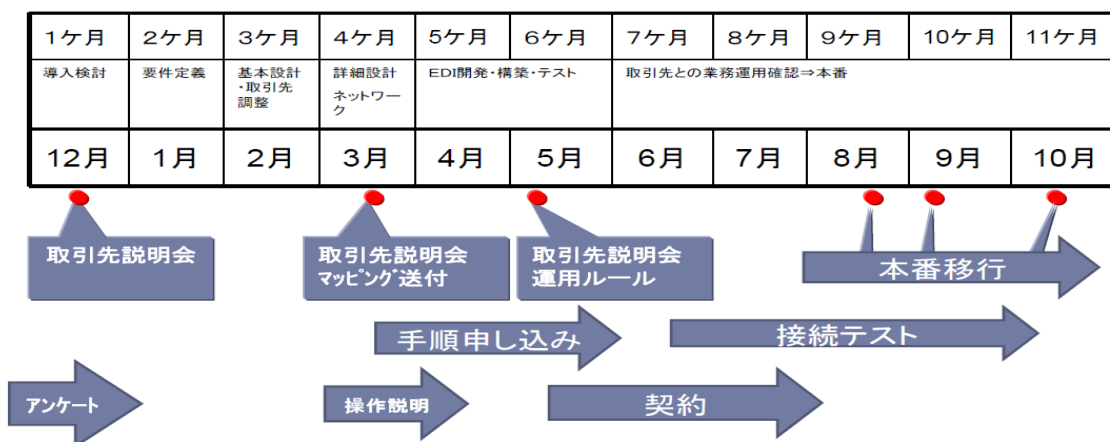
その手段としては、①流通 BMS の採用 ②GLN・GTIN 利用 ③VAN・ASP 型モデル活用を進めることにしました。(②は項目には入れたが今回採用は見送り。内部商品コードを採用)

—導入時期や期間についてお伺いします。

【竹内】

当社の事業のうち、まず無店舗事業での取扱商品について流通 BMS へ移行することしました。2008 年の 12 月ごろから検討を開始しています。取引先へのアンケートや説明会を 3 回実施し、本番への移行は 2009 年の 8 月から 10 月にかけてです。取引先へのマッピング配付から 5 カ月程度で導入しました。

▶ 導入の期間



—取引先へアンケートも実施されたんですね。

【竹内】

取引先説明会に先立って取引先へアンケート調査を実施しました。導入前の段階で、取引先が新しい EDI に何を期待されているのか、切り替えるにあたってどんな問題点があるのか、などについて把握することができました。これに基づいてあとの取引先説明会を組み立てていきました。

取引先は、卸やメーカーが多いですが、中には農産物の生産者の方もおられます。状況はどうなのか掴む必要があったのです。現状をお聞きしたところ、オンラインだけで受注されている取引先は 12%しかありませんでした。オンライン/FAX 併用が 52%、FAX 受注だけという

ところが 36% ありました。インターネット環境は 99% が導入されていました。

したがって、切り替えにあたっては、これまで FAX 受注だけという 36% の取引先に対して、ご理解を頂くか、知恵を絞らなければならないと考えました。また、流通 BMS については、導入済が 15% (28 社)、導入予定・検討中が合わせて 16%、予定なし・わからない、という取引先が 69% もありました。そこで、あまり流通 BMS を前面に出すのではなく、「新しい発注方式が今後こうなります」「そのためにこんなことを準備して頂きたい」と説明し、流通 BMS をあまり意識しなくてもよいように説明しました。

一導入されたシステム概要についてお伺いします。

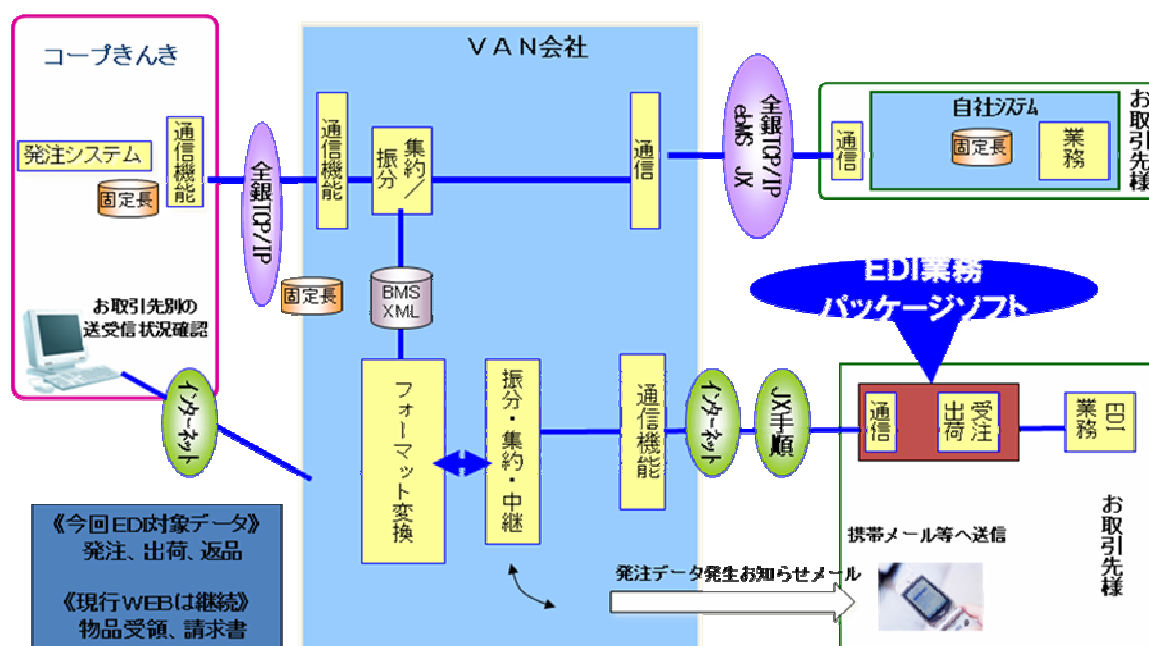
【竹内】

導入システムの概要は以下の通りです。VAN・ASP 会社を利用し、通信手順等のサービスを拡充しました。コープきんきから VAN 会社を経由して取引先へデータを届けます。この図にはないですが、別に会員生協からコープきんきへ発注データを集めるしくみがあり、届いた発注データは以下の図の VAN 会社を通して同じように取引先へ流されています。コープきんきと VAN 会社の間は、従来から全銀 TCP/IP で繋ぐしかけがあったため、これを利用しました。コープきんきから VAN 会社へは固定長フォーマットで送り、VAN 会社の方で流通 BMS フォーマットに変換してもらい、取引先へお渡ししています。

特別な部分としては、VAN 会社から取引先へ「発注データ発生お知らせメール」が飛ぶようになっていました。これは発注データがあったり、なかったりすることと、JX 手順で取りに来られる取引先が多いので、発注データのお取り忘れがないようにするためです。

取引先の受信については、コープきんきが紹介する「EDI 業務パッケージ」を利用される場合と、自社開発される場合があります。

コープきんきの EDI ネットワーク図



●アンケートを参考に通信手順を準備●

―導入の流れについてお伺いします。

【竹内】

導入にあたっては、流通 BMS ガイドラインの「導入のすすめ方」を参考にしました。導入検討フェーズでは、VAN サービスを使うことにしていましたので、VAN サービスの機能・コスト比較検討などから始めました。

システム形態の選定フェーズでは、VAN サービスを含めたシステム形態の選択、処理モデルやプロトコルの選択などについて検討しました。システムの構築、GLN 取得・電子証明書取得などは VAN 会社の方で対応してもらいました。

取引先企業へのサービス内容検討については、運用ルールの説明、契約書関連について説明し、マッピングシートについては資料で取引先へ送付し、後でお問い合わせに應じる形にしました。

接続テスト・移行・本番については、接続テストは VAN 会社でやってもらい、上がったデータの内容についてコープきんきで確認しました。

移行は、本番を 3 回に分けて行いました。従来は会員生協から取引先への発注でしたが、切り替え後コープきんきから取引先へ発注する形に、取引先ごと切り替えました。

取引先からの接続手順については、アンケート等を基に検討の結果、ebXML と JX 手順、全銀 TCP/IP を「可」とし、JCA 手順は「不可」としました。

導入した業務の範囲についてですが、今回は無店舗事業分であり特徴として取引先への伝票枚数が少ないこと、数量修正が少ないことがあげられました。したがって、適用するデータ種は「発注」「出荷」「返品」のまず 3 種類でいく、ということにしました。

(「受領」「請求」「支払」については、会員生協が既に Web でデータを提供しているため)

―導入にあたってご苦労されたところはどんな点でしたでしょうか。

【竹内】

取引先説明会を開いたあとの契約締結進捗管理、諸手続の進捗管理が結構重い作業でした。

問い合わせが多かった内容は、マッピングに関する問い合わせと、コード体系についてです。発注者が会員生協からコープきんきへ切り替わることにより、従来の会員生協からの発注で使用していたコードが使えなくなることにに関する問い合わせなどが多かったです。

本番前ではファイアウォールの設定に関する問い合わせや、流通 BMS のデータの設定の誤り、推奨ソフトの設定情報に関すること、契約手続き関係の問い合わせが多く、本番開始後では、出荷データの送信忘れや二重送信、テスト区分の本番への移行忘れ、推奨ソフト表示文字の大きさなどについて問い合わせや要望が届き、対応してきました。

会員生協から FAX で受注されていた取引先に対しては、率直に流通 BMS への切り替えをお願いしました。取引先とコープきんきの双方にメリットが出ることを訴えてお願いしました。

FAX 発注は残さないということを決めましたので、取引先に推奨ソフトの紹介や貸し出し(レンタル)を行い、FAX 受注からの全面的な切り替えを進めていきました。(当時、Web 型流通 BMS は標準策定中であり、検討はしたが採用はできなかった)切り替え時点では、推奨ソフト使用が 247 社、推奨ソフトを使用していた代行受信が 4 社になりました。

マッピング時に留意した点としては、店舗用語をそのまま活用していることです。コードリストも追加せず、標準のままで利用し、将来店舗業務切り替え時に利用する予定です。全銀用

フォーマットも「コープきんき」⇒「VAN 会社」の1パターンのみで流通 BMS と同内容としました。取引付属番号及び取引明細付属番号に、取引番号、取引明細番号をセットしています。

説明会で取引先向けアンケート結果や流通 BMS 導入のメリットを説明し、またソフトウェア等操作説明会も別途実施して、流通 BMS を身近に感じて頂く工夫をしました。

—導入の効果についてはいかがでしょうか。

【竹内】

通信費の削減、個別プログラムの設計・開発工数の削減、取引先追加時の負担軽減、維持保守費用の削減等の面で効果が出ています。FAX 発注の廃止、伝票レスによる処理費用も削減されています。また、今後物流業務の標準化も検討しており、標準化されればその面でも効果が期待されます。

導入接続先を通信手順別に見ると、全銀 TCP/IP が 15 社、流通 BMS の手順（ebXML、JX 手順等）が 272 社となっています。

—今後の課題については何かありますか。

【竹内】

取引先の業務改善支援（マスタ登録情報の改善、データ活用のアドバイス）や、取扱いメッセージ種の拡大です。また受領、請求、支払データなど現在 Web 型の ASP サービスに乗せているデータの流通 BMS への切り替えも課題です。

—今後の予定についてお伺いします。

【竹内】

流通 BMS への移行をさらに進めていく予定です。2010 年度の計画としては、既に採用した「無店舗事業分」に続いて、今後「店舗事業分」について流通 BMS を採用していく予定です。幸い「店舗事業」の取引先と「無店舗事業」の取引先は、重複するところも多いのです。店舗事業での流通 BMS の採用にあたっては流通 BMS 基本形 Ver.1.3 を意識していますが、同一取引先も多く、無店舗事業で採用した基本形 Ver.1.1 との関係をどうするか、「受注訂正」・「請求」・「支払」の業務との関係を考慮しながら進めようと思っています。

また、物流業務については、現在各物流センターが会員生協管理になっており、すぐに標準化は難しい状況です。しかし、今後見直すタイミングがあれば、物流についてもうベル等の標準化を検討していきたいと考えています。

—本日はどうもありがとうございました。

（聞き手：流通システム標準普及推進協議会 上級研究員 新宮 徹也）

トピック リニューアル 流通 EDI 入門講座、流通 BMS 講座 開講

1. 流通 EDI 入門講座（無料）

講座内容：流通業界の特徴と流通システム標準の歴史と現状について。

→統一伝票、データ交換（EOS/EDI）、流通 VAN、標準コード、J 手順から流通 BMS 策定までの背景などについて、初心者の方々に分かり易く説明。

受講対象者：これから流通業のシステムを担当される皆様、小売業、卸売業、商品メーカー、システムベンダーの方々など。

申し込み制：<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/event/edi.html>

2. 流通 BMS 講座（導入編）（無料）

講座内容：流通 BMS 導入時の検討項目、自社業務運用と流通 BMS の項目との関連について説明。

受講対象者：流通 BMS の導入を検討しているユーザー企業の現場部門、システム部門の方々、及びユーザー企業をサポートする SI 企業やコンサルタントなど。

申し込み制：<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/event/event01.html>

3. 流通 BMS 講座（システム設計編）（無料）

講座内容：流通 BMS の導入、環境設定を自ら行う方に演習・理解度確認を通して実践的に説明します。マッピングシートと通信パラメータ協定シートを使用した演習があります。

受講対象者：流通 BMS を導入されるユーザー企業のシステム部門のご担当者、流通 BMS 対応のシステム構築を請け負う SI 企業の方々など。

申し込み制：<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/event/event01.html>

（3/25 開催分は満席につき募集終了）

◎上記講座の開催スケジュール

流通EDI入門講座、流通BMS講座 開催スケジュール(2010年3月～6月)

講座名	2010年				
	3月	4月	5月	6月	
流通EDI入門講座		△4/22東京		△6/10東京	毎月 開催 (東京、大阪)
			△5/13大阪		
流通BMS講座 (導入編)	△3/19東京		△5/20東京		1回/2ヶ月 開催 (東京、大阪)
流通BMS講座 (システム設計編)	△3/25東京			△6/17東京	1回/3ヶ月 開催 (東京)



流通 BMS のロゴマークは(財)流通システム開発センターの登録商標です。
(登録第 5270226 号)

流通 BMS 探訪 No.4

発行：2010 年 3 月 9 日

発行人：流通システム標準普及推進協議会（流通 BMS 協議会）

住所：〒107-0052 東京都港区赤坂 7-3-37 プラズ・カガ

財団法人 流通システム開発センター内

電話 03-5414-8505 FAX 03-5414-8513

お問い合わせは協議会のホームページ（下記）からお願いします。

<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/>